

中央線開通120周年記念

特別号

立川駅

第86回箱根駅伝予選会

いざ箱根路へ
全力疾走

立川と語ろう 立川に生きよう

がんばる！立川 立川・宇宙の学校

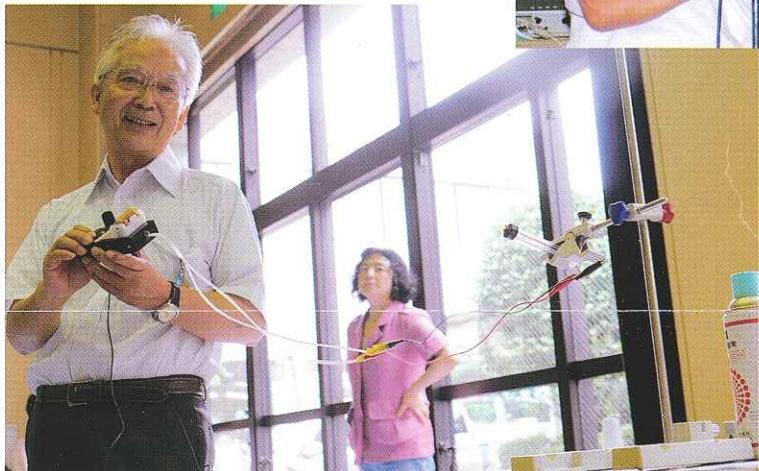
11月29日。錦学習館にはいつものように親子連れが集まってきた。子ども対象イベントにしてはお父さんの参加率がとても高い。ここは「立川・宇宙の学校」。

平成21年5月31日から始まった「宇宙の学校」は、親と子の絆を大切に親子で参加のサイエンス教室。宇宙工学者で長年、文部科学省宇宙科学研究所（現・宇宙航空研究開発機構）でロケットの設計に携わってきた的川泰宣さんが私財を投じて立ち上げたNPO法人「KU-MA」

的川先生のお話



ロケット発射！



みんなと楽しむ遠藤先生



入浴剤でロケットを作る！



親子で作った風車



が運営する。開校式には的川会長本人も参加、小さな子どもとその親に「宇宙の話は〈いのち〉の話。人間が生まれるまでには、宇宙が誕生した137億年前から続く〈いのち〉のリレーなければならない」と分かりやすく話をした。

「立川・宇宙の学校」の今年のテーマは「飛ぶ・浮かぶ」。風車を作成したり、植物がどうやって遠くまで種子を運ぶかを実験的に学んだり、アルコールロケットを飛ばしたり、入浴剤でロケットを作ったり、注射器やストロー、空気を入れたビニール袋をどうやって安定させてまっすぐ飛ばすかなど、毎回充実した授業内容。あっという間に時間が経ってしまう。

元立川市立第一中学校校長で、KU-MAの理事でもあり全国中学校理科教育研究会顧問の遠藤純夫先生が直接子どもたちに語りかける。あたかも子どもたちに語りかけているようだが、実は親に語りかけている。「親に興味を持つてもらい、そこから親子の絆が深まり、周囲の人々との関係が生まれてくれればいいなと願っています」と。宇宙の学校は、まず身近な人間関係が宇宙につながると教えてくれる。

120周年を迎えた中央線 駅は街の玄関口

中央線の前身 甲武鉄道が新宿—立川間を開通したのが、明治22年4月11日。さらにそのレールを八王子まで延ばしたのが、8月11日。今年120年を迎える東京の大動脈。その主要ターミナルとして日々多くの利用者を迎える立川駅の駅長—橋本真市さん。平成21年6月に着任した駅長に話をきいた。

インタビュー：えくてびあん&多摩てばこネットスタッフ

立川駅長一橋本真市さん



対応していらっしゃいました。

橋本 鉄道は安全なものであるということが、私どもの最優先されるべき点です。利用されるお客さまに、駅も安心して利用できるものなのだと思っていただけるような取り組みをいたしております。

ケガといえば人が集中して危険な時間帯もありますよね。よく事故が起きないなどと思います。

橋本 中央線の下りホームのエスカレーター付近ですよね。新しい

駅になった時に設置されたエスカレーターが西側にあります。ここは我々としても注意を払っています。ホームの中程に必ず社員がおり、そこにあるモニター画面で、常に注意して見ております。今までに危険を感じて止めたというケースは無いと聞いておりますし、私が着任してからもありません。ありませんが、おっしゃるように非常に多くのお客さまが乗り降りされる時間帯は確かにあります。

危険を感じたら、対処されるわけですね。

橋本 もちろんそうします。私が着任してこの4ヶ月で、一度だけエスカレーターの向きを変えたことがあります。両方とも昇り専用にしました。降りるお客さまと昇るお客さまが交錯して一時に混み合う時間帯だけ一斉に昇りにしようと。

それはいつだったんですか？

橋本 立川の花火大会の日です。その日は、一時的に多くのお客さまが利用されたため、安全を最優先に考え、花火開始前のある一定時間帯

は昇り専用にさせていただきました。通行の仕方を含めて駅を安全に運営するために、普段よりも体制を強化し、警察の方やガードマンの力も借りながら取り組みました。

大きな混乱もなく、整然と人が流れていたように記憶しております。

橋本 万全の体制をみんなで準備して、「危なければ入場規制をします」と警察の方と事前に打ち合わせをしていました。例年階段規制などを実施していましたが、今年は事前の準備が功を奏しそれをすることはまったくありませんでした。何ごともなく無事に過ごせることが、こんなに大事といいますか、嬉しいことといいますかね。その積み重ねなんですかね、私どもの仕事といいますのは。

先日、ピコピコ鳴って電車が止まっていましたが…

橋本 列車非常停止装置といいますが、ホームからお客さまが転落されるとか物を落とされたとか、ちょっと危ないかなというときに押して下さいというボタンがあります。その日は、このボタンが青梅線のホームで押されました。実は足の不自由なお客さまが線路に転落されてしまったんです。それを見ていた高校生の方が、すぐに救出しなければならないということで2人線路上に降りられたんです。びゅうプラザの社員がゴミを捨てに行って帰る時にその様子を見つけ、すぐにボタンを押したということです。

そういう現場を見たら、躊躇せずそのボタンを押した方がいいんですね。

橋本 押して下さい。必ず押して下さい。ボタンを押したらすぐ駅係員に知らせてください。

中央線は事故が多くて有名でしたが、最近は事故も減ってきたようですね。

橋本 事故は着実に減っています。中央線は住んでみたい場所ということをいえば、すごく人気の高い場所です。国立、国分寺、特に立川に近い場所は多くの皆さんから住んでみたい

といいますか、おもてなしをみんなで作っていますか、おもてなしをみんなで作っています。そのように取り組んでおります。

駅の社員は130人くらいで、駅社員以外にも清掃するグループ会社、店舗など相当数の方が働いていらっしゃいます。その最先端まで全員がおもてなしの心を持てるように取り組み始めているところです。

そのような中で駅の役割とは？

橋本 立川に参りまして地域の皆さんにお伝えさせていただいている1つは、立川の玄関口としての、駅の役割です。私どもはそれがまずもって大事と考えております。通勤通学でご利用なさるお客さまは当然必要とされて立川駅をご利用いただくわけですが、それ以外のお客さま、レジャーですとか買い物ですとかいろいろな需要のお客さまにとって、立川駅はまず最初に出会う「立川」なわけです。

駅の社員の接遇、そのひとつによって「立川っていいところなんだ」って思われるか「立川の駅員ってダメだね」って思われるか。設備や利便性も含めて、地域の皆さんとともに「おもてなしの心」でお迎えすることが大事だと思っております。

社員の方々にそのようにお話をされているのですか？

橋本 はい。立川駅はただ新しくなっただけじゃなくて、お客さまを気持ちよくお迎えする

PRできるような、地元のみなさんと一緒に作っておもてなしできるような。

街にはそれぞれの良さがありますものね。

橋本 駅を中心に商業施設があって、そのエリア内というのは生活しやすいようになっていて、その先には住宅があって、学校があつたり研究施設があつたり、うまく共存しています。

立川は基地があったところから公園になりますが、一方で官公庁、大学、極地研究所のような研究機関、裁判所といった施設があるなどの特徴があります。今までの街の中に新しい変化があるのが立川です。

先ほどおっしゃったように、確かに立川に降りる方達の目的が変わってきていますね。

橋本 はい。立川以外から来られるお客さまに、1人でも多く利用していただき、立川はいいところなんだ、おいしいものもいっぱいあるんだ、だからまた立川に来ようと思っています。

駅はその街の玄関口。1人でも多く立川の街を訪れていただくための駅の役割は様々あります。まだまだ足りない部分もありますので、努力して心地よくご利用いただけるよう取り組んでまいります。

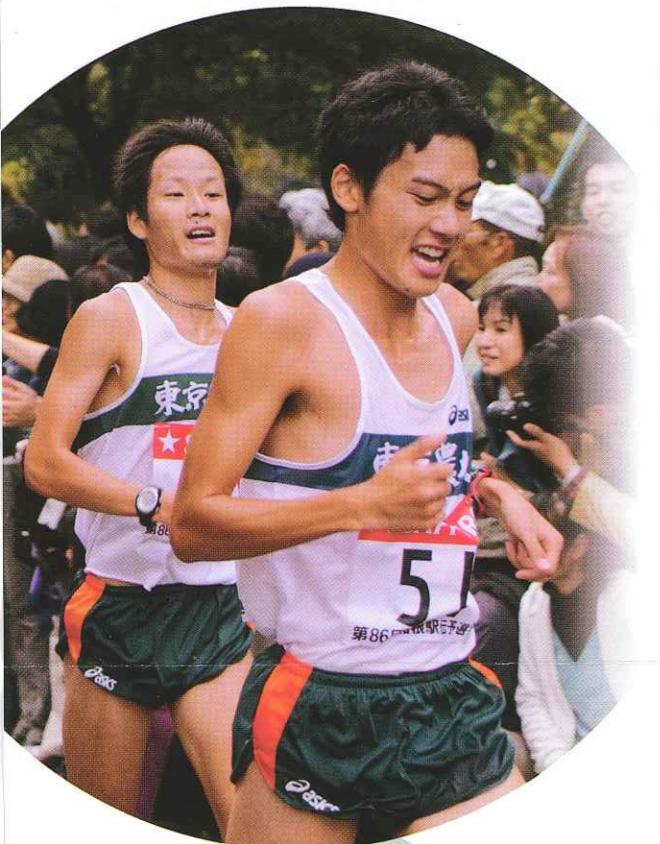
中央線も120周年を迎え、新車両で快適になり、耳の不自由な方にもわかりやすい案内が好評なようです。いずれ鉄道は究極のサービス業ですね。

橋本 情報の出し方はいろいろな方のニーズに応えてどのように表していくかです。異常時は特に大事ですね。立川の花火大会のような何事もなく無事に終わったという、結果として何事もなかったというこみ上げて来るような安堵感、たぶん日々その繰り返しながらですが、役割としてお客様の求められるニーズになるべく応えられるよう、おっしゃる通り究極のサービス業として努力していきたいです。



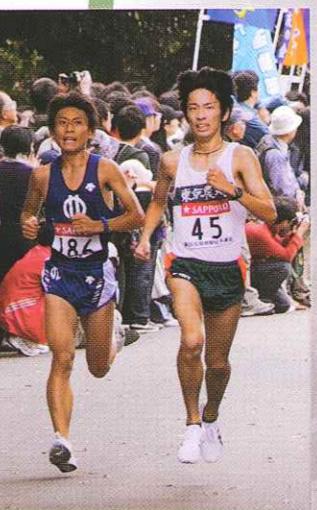
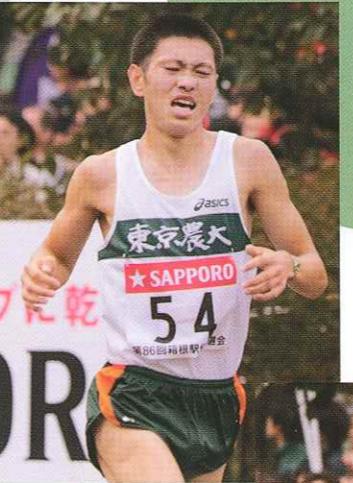
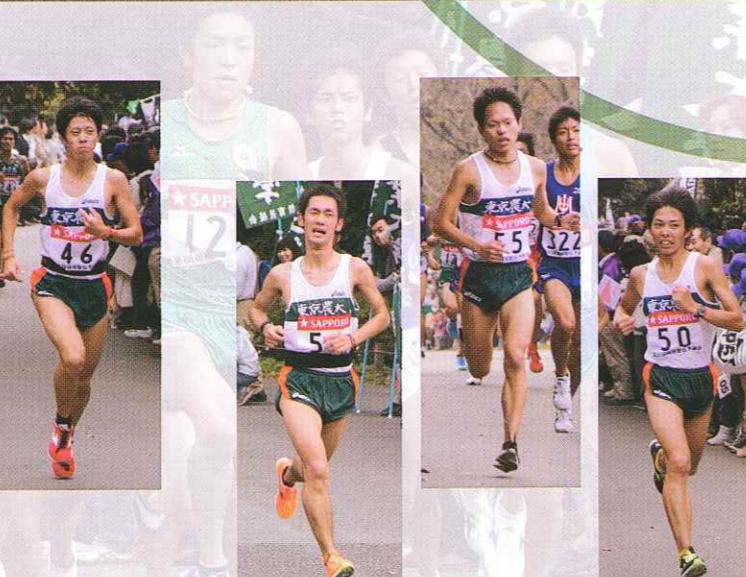
第86回箱根駅伝予選会

いざ箱根路へ全力疾走



陸上自衛隊立川駐屯地の滑走路からスタートする。号砲が響くと、10月にしては寒い空に白煙がなびいた。一斉に走り出すランナー。スタート直後から長い列になる。駐屯地内を2周。市街地に出るとこどで5km。選手たちは市街地に出ると、立川駅北側立川通りを走り抜け、芋窪街道へ。砂川方面に向かい昭和記念公園北側から公園内に入つて行く。沿道にはそれぞれの大学のぼりが立ち並び、そこにも多くの陸上部関係者、卒業生、家族が声援を送る。

昭和記念公園内は、思ったより走りにくい。起伏があつて曲がりくねる。観客が旗をもつていると走るのがこわいという選手もいる。ぶつかりそうだらだ。もちろんのぼりや旗などで走路を妨害すれば、その学校に迷惑がかかるのだから観客も注意しないといけない。



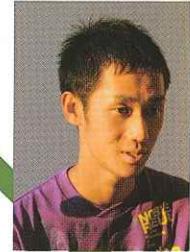
昨年の予選会では快走し1位でテープを切った主将の外丸選手。今年は少し調子が悪いという話だったが、集団で走り続け、バラバラになつてもあつという間に12人の選手がゴール。順位は2位になり、先着10人のタイム選考結果でも2位で予選会を通過。本選へのキップを手にした。



選手を支える大きな力

予選会の実施される立川で、9月18日、東京農大のOB会である三多摩常磐松会が東京農大副学長で陸上部部長の豊原秀和教授を迎えて、予選会に向けた会合を開いていた。当日はどこで集合し、どの部隊がどこで農大の幟を持つか。昨年の予選会では「ここへ2度と戻ってくるな」と送り出した。今年こそシードをとってもらいたいとのOBの願いが熱く伝わってくる。豊原教授も、学校が今年はどのくらい力を入れてきたかを語った。本気度は卒業生の中でも高まっている。

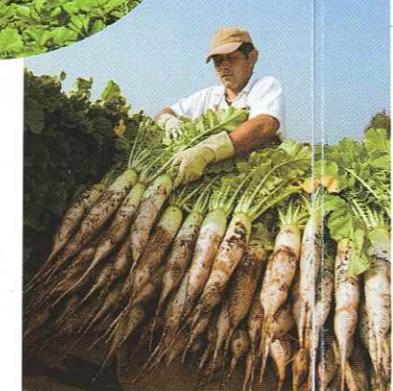
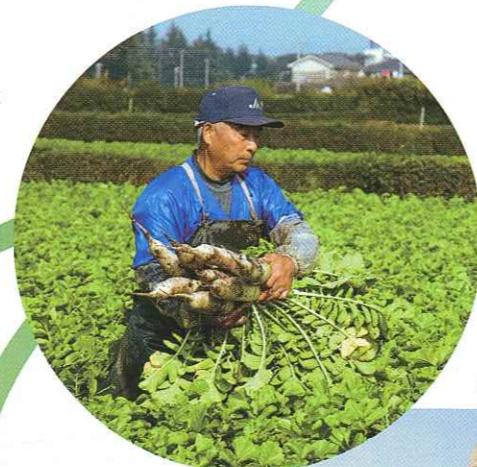
熱い応援



予選会を目前にしたある日。東京農大経堂キャンパスに行った。合宿から帰ったばかりの陸上部長距離メンバーは、それぞれに練習。前田監督に話をうかがうと、松岡副主将を呼んでくれた。秋の日差しの中、「主将の外丸がないんで、すみません」と言いながら松岡選手が予選会に向ける意気込みを語ってくれた。「いろいろ言われていますが、専門的な見方をする人は農大の力を認めた発言をしています。予選会は1位を、本選では3位までに入ります」。

手にはブランド大根

10月16日。武藏村山市、横田基地のすぐ近くの大根畠。乙幡安治さんの畠では、息子の昇治さんと2人で大根を抜く作業が行われている。東京では名のしれたブランド大根。抜かれた大根は乙幡さんの家に持ち帰り1本1本洗われて、白いきれいな肌を出す。この大根が17日早朝、昭和記念公園西立川口に運ばれた。リヤカーにたくさん積まれた大根。ランナーがゴールし、成績が発表された後、みんなで大根踊りをするのが東京農大名物だ。この日のための大根は8月にタネをまいたもの。手にもって踊るのだから、大きすぎず小さすぎず。曲がっていないまっすぐな大根。さすが乙幡さんの大根だ！



東京農大を応援する! ~だいこん踊り~

エールを送る

なごやかな雰囲気が終始漂う農大陣営。教授や先輩方の話が終わり、外丸主将が本選に向けての決意を話す。いつのまにやら周囲には幾重にも重なる人垣ができていた。



農大と関係がある人も無い人も、大根をもったなら、一斉に手を挙げ足を上げ、農友会応援団やチアリーダーとともに楽しい大根踊りが繰り広げられた。応援団が本選へ向かう選手にエールを送る。そしてお待ちかねの大根踊り。人の輪はさらに大きく人垣はさらに高くなっている。各所から「農大っていい学校だなあ」という声が聞こえてくる。





昭和記念公園「ウインタービスタイルミネーション」 すてきな立川

立川の南も北もイルミネーションで飾られる12月。昭和記念公園にも「ウインタービスタイルミネーション」が豪華で厳かなクリスマスを演出します。シンボルツリーの「キングオブシャンパングラスツリー」は高さ4.5m。約6500個の電球を使っていました。カナールと大噴水はライトアップされて、まるで光を流しているよう。毎年テーマの異なるグランドイルミネーション。今年は海をイメージしています。

恒例の冬の花火は19日（土）と24日（木）。打ち上げ時間は20時から5分間。ホットフードショップもあって、寒い季節の一夜を十分楽しめるスポットです。

- 12月5日[土]～25日[金]までの21日間
- 点灯時間 17:00～21:00[最終入園 20:50まで]
- 駐車場 16:00～21:00[最終入園 20:45まで]
16時以降は「立川口」「立川口駐車場」のみのご利用
- 入園料おとな400円 こども[小中学生]80円 幼児無料
- 駐車料200円 (16:00～)

えくてびあん特別号 平成21年12月8日発行

発行 有限会社 えくてびあん 平成21年12月8日発行

〒190-0023 立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F TEL 042-528-0065
発行人・黒須環 編集人・芳賀敏博 編集スタッフ・大久保清志／清水恵美子／中薫子
デザイン・L&T 写真・榎本典泰／五来孝平／小林達実／富士晃 印刷・株式会社 大廣社